

令和 7 年度 専攻科ガイダンス資料

久留米工業高等専門学校専攻科

作成 専攻科主事室

専攻 _____

氏名 _____

目 次

第Ⅰ章 総論	
1-1 専攻科の教育目的と特徴	1
1-2 両専攻の紹介	1
第Ⅱ章 履修の手引き	
2-1 科目履修の手引き	2
2-2 授業科目一覧	
(1) 一般科目及び専門基礎科目（各コース共通）	5
(2) 機械・電気システム工学専攻	6
機械工学コース	7
電気電子工学コース	8
制御情報工学コース	9
(3) 物質工学専攻	10
生物応用化学コース	11
材料工学コース	12
2-3 単位の修得及び成績評価に関する規程	
(1) 単位の修得に関する規程	13
(2) 学業成績の評価並びに単位の認定及び修了に関する規程	14
(3) 専攻科生の席次について	16
2-4 公欠届と追試験について	17
第Ⅲ章 学生生活と進路状況	
3-1 大学評価・学位授与機構へ「学士」の学位申請	18
3-2 学会等における発表実績	19
3-3 専攻科生の進路状況について	20
3-4 本科・専攻科 TOEIC テスト受験者の平均点の推移	22
3-5 各コースの学習・教育到達目標	23
3-6 専攻科の年間行事	29

第Ⅰ章 総論

1-1 専攻科の教育目的と特徴

本高専は若くして工学の道を志した学生の主体的意欲を尊重し、下記の教育理念*を達成するため低学年から実践的教育を行い、これまで多くの優秀な人材を産業界に送り出してきました。

専攻科では、この教育理念を更に高いレベルで達成することを目的として、本学科との継続性を重視した教育を行っています。本専攻科は平成5年に九州最初の専攻科として設置されました。その後、平成8年度には下記の教育目的（平成18年度に目的と変更）を掲げ、「創造工学実験」、「先端工学特論」、「専攻科インターンシップ」、「環境倫理学」等、当時、他の高等教育機関に類のない先端的教育を実施してきました。更に、「出身学科ごとのコース」の設置など、先端的なカリキュラム編成による実践的技術者教育を行っています。

本校の教育理念

『自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を
兼ね備えた、社会に貢献できる技術者の育成』

教育目的

次のような実践的、創造的技術者を育成する。

1. 先端技術及び高度情報化に対応できる技術者
2. 創造的研究開発能力を持った技術者
3. 国際化に対応できる技術者

特 徴

1. 高専教育の特徴を生かした少人数教育
2. 学生の自主性を生かした創造的技術教育
3. 地域社会と連携した実践的教育

1-2 両専攻の紹介

◆**機械・電気システム工学専攻** 本学科の機械工学科、電気電子工学科、制御情報工学科を母体としており、1学年の定員は12名です。本専攻ではそれぞれの学科の深い専門知識を修得するとともに、それらを応用して先端技術に対応できる技術者の育成を目指しています。

◆**物質工学専攻** 本学科の生物応用化学科と材料工学科を母体とし、1学年の定員は8名です。有機、無機、ポリマー及び金属材料に関して、より深い専門知識やバイオ技術に関する専門知識を修得し、先端技術に対応できる技術者の育成を目指しています。

第Ⅱ章 履修の手引き

2-1 科目履修の手引き

(1) 修了に必要な修得単位

専攻科は、一般の大学と同じように完全単位制をとっています。専攻科を修了するためには、機械・電気システム工学と物質工学専攻の各コースのいずれかを履修し、**62単位以上**修得する必要があります。

各コースとは、次のとおりです。

機械・電気システム工学専攻： 機械工学コース，電気電子工学コース，
制御情報工学コース

物質工学専攻： 生物応用化学コース，材料工学コース

(2) 科目の単位と履修時間

専攻科では、1単位時間は45分で、講義、演習、実験等の授業形態により1単位数当たりの授業時間数が異なります。講義は週1単位時間15週で1単位、演習は週2単位時間15週で1単位、実験・実習は週3単位時間15週で1単位となっています。

(3) 選択科目の履修

必修科目（一般6単位，専門基礎6単位，専門19単位）に加え，選択科目として，一般科目6単位，専門基礎科目16単位，専門科目28または30単位（各コースによって開設科目数が異なる）が開設されています。このうち，一般科目の日本語コミュニケーションおよび生涯スポーツ特論の2科目から2単位以上，専門基礎科目から10単位以上，専門科目から14単位以上を修得した上で，選択科目の合計単位数が32単位以上になるように，履修する必要があります。

選択科目には，上記の本校で開設する科目以外に，一般科目及び専門基礎科目の中に，専攻科特論一般Ⅰ，Ⅱと専攻科特論専門Ⅰ，Ⅱが設定されています。これらの科目は，本校以外の教育施設等（放送大学や単位互換協定

を結んでいる大学等）における学修（以下「特別学修」という）で修得した単位を、本校の単位として振り替えるためのものです。単位を取得する場合は、「特別学修許可願い」を提出すると共に、単位取得後、本校の単位として認定を希望する科目について「特別学修単位認定願い」を提出してください。また、選択科目の中には他コースの科目を4単位まで取得することも認められています。なお、各コースの専門科目の中に機械工学特論、電気電子工学特論、制御情報工学特論、生物応用化学特論、材料工学特論が配置されていますが、これらは夏休みに本校でサマーレクチャーを開講した場合の科目であり、毎年開講される科目ではありません。単位の取得計画を立てる際には、開講されるか否かを確認しておくことが重要です。

選択科目の履修に際しては、シラバスをよく読み、授業内容や評価方法を十分に把握して臨んで下さい。

本校開設選択科目の履修届は、所定の期日までに教務係へ提出されなければ、履修者名簿に登録されません。

専攻科修了に必要な修得単位数

必修科目		選択科目	
一般科目	6単位	一般科目	2単位以上
専門基礎科目	6単位	専門基礎科目	10単位*以上
専門科目	19単位	専門科目	14単位以上
合計	31単位	合計	31単位以上

*10単位の中に専攻科特論専門は含まれない。

（４）単位の認定

単位の認定は、授業担当教員の成績評価に基づき行なわれます。放送大学等の他大学や専攻科で取得した単位は、特別学修単位認定願いが提出された後、2年修了時の修了査定会議において審議された後、認定されます。

（５）修業年限

専攻科の修業年限は2年で、4年を超えて在学することはできません。

(6) その他

6-1 掲示板(**Teams**)について

日頃の連絡事項は専攻科棟の1階電子掲示板及び1階・2階掲示板さらに学生課横の掲示板、**Teams**で行います。掲示板、**Teams**は毎日必ず見るように心掛けて下さい。なお、専攻科研究基礎、専攻科研究論文、創造工学実験、先端工学特論、専攻科インターンシップの履修方法及び学位授与機構への学位申請方法に関しては、それぞれの内容および手続き説明会を当該科目の適切な時期に開催します。こちらの開催日の案内にも注意しておいてください。

6-2 配布メールアドレスについて

本科の時に利用していたメールアドレスは専攻科で引き続き利用することはできません。新たに **Office365** のメールアドレスとパスワードが配布されます。各連絡のほとんどが **Office365** のメール、**Teams** にて行われますので、必ず使えるようにしてください。ただし他人に不正使用されないように十分な管理を行って下さい。紛失あるいは不正利用が認められた場合は速やかに図書係まで申出を行って下さい。

6-3 情報処理端末(PC)のログインについて

図書館2階のL1, L2, L3 および専攻科棟3階A4室にて情報処理端末(PC)を利用する場合は、新たに配布される統一認証のログインIDとパスワードが必要です(**Office365**のものとは異なります)。授業等でPCを利用する場合は各自のIDで必ずログインするようにして下さい。今後、情報セキュリティがより厳しくなり、各研究室等でPCを利用する場合でもログインIDの入力が必須となります。メールアドレスの項でも記載したように、各自のID、パスワードが不正利用されないように十分注意して下さい。

2-2 授業科目一覧

(1) 一般科目及び専門基礎科目(各コース共通)

一般科目及び専門基礎科目
(各コース共通)

令和7年度入学生

授 業 科 目			授業 形態	単 位 数	学 年 別 配 当		備 考
					1 年次	2 年次	
一般科目	必修	実践英語Ⅰ	講義	2	2		
		実践英語Ⅱ	講義	2	2		
		実践英語Ⅲ	講義	2		2	
	一 般 科 目 必 修 単 位 計			6	4	2	
	選択	日本語コミュニケーション	講義	2		2	} 2単位以上修得
		生涯スポーツ特論	講義	2		2	
		専攻科特論一般Ⅰ	講義 又は演習	2	2		4 単位以内
専攻科特論一般Ⅱ	講義 又は演習	2		2			
一 般 科 目 選 択 開 設 単 位 計			8	2	6		
専門基礎科目	必修	地球環境と現代生物学	講義	2	2		
		現代物理学	講義	2	2		
		応用情報処理演習	演習	2	2		
		専 門 基 礎 科 目 必 修 単 位 小 計	6	6	0		
	選択	応用数理Ⅰ	講義	2	2		} 10 単位以上修得
		応用数理Ⅱ	講義	2	2		
		応用数理Ⅲ	講義	2		2	
		量子力学	講義	2	2		
		教養化学	講義	2	2		
		画像工学	講義	2	2		
		応用情報処理	講義	2	2		
		統計力学及び熱力学	講義	2		2	
		専攻科特論専門Ⅰ	講義	2		2	4 単位以内
		専攻科特論専門Ⅱ	講義	2		2	
専 門 基 礎 科 目 選 択 開 設 単 位 小 計			20	12	8		
専 門 基 礎 科 目 開 設 単 位 計			26	18	8		
一 般 科 目 、 専 門 基 礎 科 目 開 設 単 位 合 計			40	24	16		

(2) 機械・電気システム工学専攻

機械・電気システム工学専攻

令和7年度入学生

授 業 科 目			授業形態	単位数	学年別配当		備 考		
					1 年次	2 年次			
必修	創 造 工 学 実 験	実験	2	2					
	技 術 英 語	演習	1		1				
	先 端 工 学 特 論	講義	2	2					
	専 攻 科 研 究 基 礎	実験	4	4					
	専 攻 科 研 究 論 文	実験	10		10	学位申請等論文			
専 門 科 目 必 修 単 位 小 計			19	8	11				
専門科目選択目次	弾 塑 性 力 学	講義	2	2		A	*	*	
	破 壊 力 学	講義	2	2		A	*	*	
	応 用 流 動 工 学	講義	2	2		A	*	*	
	生 産 加 工 学	講義	2		2	A	*	*	
	移 動 現 象 論	講義	2	2		A	*	*	
	計 算 力 学	講義	2		2	A	S	*	
	設 計 シ ス テ ム 工 学	講義	2	2		A	*	E	
	メカトロニクス工学	講義	2		2	A	S	E	
	シ ス テ ム 制 御 工 学	講義	2	2		A	S	E	
	デ ジ タ ル 制 御	講義	2	2		A	S	E	
	労 働 安 全 衛 生 論	講義	2		2	A	*	*	
	コ ン ピ ュ ー タ グ ラ フ ィ ッ ク ス	講義	2		2	*	S	*	
	パ タ ー ン 認 識	講義	2		2	*	S	*	
	形 式 言 語 と オ ー ト マ ト ン	講義	2	2		*	S	E	
	デ ー タ ベ ー ス	講義	2	2		*	S	*	
	応 用 電 磁 気 学	講義	2	2		*	S	E	
	光 エ レ ク ト ロ ニ ク ス	講義	2		2	*	*	E	
	集 積 回 路 工 学	講義	2	2		*	*	E	
	デ ジ タ ル 信 号 処 理	講義	2	2		*	S	E	
	プ ラ ズ マ 工 学	講義	2		2	*	*	E	
	機 械 工 学 特 論	講義	2	2		集中講義			
	電 気 電 子 工 学 特 論	講義	2	2		集中講義			
	制 御 情 報 工 学 特 論	講義	2	2		集中講義			
	専 攻 科 イン タ ー シ ッ プ	実習	2	2		A	S	E	
	専門科目選択開設単位小計			48	32	16	Aの区分30単位及びSとE各区分28単位から14単位以上修得のこと。		
	専門基礎科目開設単位計			67	40	27			
全開設単位合計(一般科目、専門基礎科目を含む。)			109	62	45				
全科目修得単位合計(一般科目、専門基礎科目を含む。)			62単位以上						
全開設単位合計(機械工学系)			89	54	35	備考欄の*は、他コース扱いの科目(4単位以内)			
全開設単位合計(制御情報系)			87	52	35				
全開設単位合計(電気電子系)			87	54	33				

※Aは機械工学系、Sは制御情報系、Eは電気電子系の履修科目を示す。

機械工学コース

機械・電気システム工学専攻

令和7年度入学生

R7年度
開講なし

授 業 科 目		授業形 態	単 位 数	学年別配当		備 考		
				1 年次	2 年次			
必修	創 造 工 学 実 験	実験	2	2				
	技 術 英 語	演習	1		1			
	先 端 工 学 特 論	講義	2	2				
	専 攻 科 研 究 基 礎	実験	4	4				
	専 攻 科 研 究 論 文	実験	10		10	学位申請等論文		
	専 門 科 目 必 修 単 位 小 計		19	8	11			
専門 科目 選 択	弾 塑 性 力 学	講義	2	2		A	*	*
	破 壊 力 学	講義	2	2		A	*	*
	応 用 流 動 工 学	講義	2	2		A	*	*
	生 産 加 工 学	講義	2		2	A	*	*
	移 動 現 象 論	講義	2	2		A	*	*
	計 算 力 学	講義	2		2	A	S	*
	設 計 シ ス テ ム 工 学	講義	2	2		A	*	E
	メカトロクス工学	講義	2		2	A	S	E
	シ ス テ ム 制 御 工 学	講義	2	2		A	S	E
	デ ジ タ ル 制 御	講義	2	2		A	S	E
	労 働 安 全 衛 生 論	講義	2		2	A	*	*
	コ ン ピ ュ ー タ グ ラ フ ィ ッ ク ス	講義	2		2	*	S	*
	パ タ ー ン 認 識	講義	2		2	*	S	*
	形 式 言 語 と オ ー ト マ ト ン	講義	2	2		*	S	E
	デ ー タ ベ ー ス	講義	2	2		*	S	*
	応 用 電 磁 気 学	講義	2	2		*	S	E
	光 エ レ ク ト ロ ニ ッ ク ス	講義	2		2	*	*	E
	集 積 回 路 工 学	講義	2	2		*	*	E
	デ ジ タ ル 信 号 処 理	講義	2	2		*	S	E
	プ ラ ズ マ 工 学	講義	2		2	*	*	E
	機 械 工 学 特 論	講義	2	2				集中講義
	電 気 電 子 工 学 特 論	講義	2	2				集中講義
	制 御 情 報 工 学 特 論	講義	2	2				集中講義
	専 攻 科 インターシップ	実習	2	2		A	S	E
専門科目選択開設単位小計			48	32	16	Aの区分30単位及びSとE各区分28単位から14単位以上修得のこと。		
専門基礎科目開設単位計			67	40	27			
全開設単位合計(一般科目、専門基礎科目を含む。)			109	62	45			
全科目修得単位合計(一般科目、専門基礎科目を含む。)			62単位以上					
全開設単位合計(機械工学系)			89	54	35	備考欄の*は、他コース 扱いの科目(4単位以 内)		
全開設単位合計(制御情報系)			87	52	35			
全開設単位合計(電気電子系)			87	54	33			

※Aは機械工学系、Sは制御情報系、Eは電気電子系の履修科目を示す。

電気電子工学コース

機械・電気システム工学専攻

令和7年度入学生

授 業 科 目		授業形 態	単 位 数	学年別配当		備 考		
				1 年 次	2 年 次			
必修	創 造 工 学 実 験	実験	2	2				
	技 術 英 語	演習	1		1			
	先 端 工 学 特 論	講義	2	2				
	専 攻 科 研 究 基 礎	実験	4	4				
	専 攻 科 研 究 論 文	実験	10		10	学位申請等論文		
	専 門 科 目 必 修 単 位 小 計		19	8	11			
専門 科目 選 択	弾 塑 性 力 学	講義	2	2		A	*	*
	破 壊 力 学	講義	2	2		A	*	*
	応 用 流 動 工 学	講義	2	2		A	*	*
	生 産 加 工 学	講義	2		2	A	*	*
	移 動 現 象 論	講義	2	2		A	*	*
	計 算 力 学	講義	2		2	A	S	*
	設 計 シ ス テ ム 工 学	講義	2	2		A	*	E
	メカトロクス工学	講義	2		2	A	S	E
	シ ス テ ム 制 御 工 学	講義	2	2		A	S	E
	デ ジ タ ル 制 御	講義	2	2		A	S	E
	労 働 安 全 衛 生 論	講義	2		2	A	*	*
	コ ン ピ ュ ー タ グ ラ フ ィ ッ ク ス	講義	2		2	*	S	*
	パ タ ー ン 認 識	講義	2		2	*	S	*
	形 式 言 語 と オ ー ト マ ト ン	講義	2	2		*	S	E
	デ ー タ ベ ー ス	講義	2	2		*	S	*
	応 用 電 磁 気 学	講義	2	2		*	S	E
	光 エ レ ク ト ロ ニ ク ス	講義	2		2	*	*	E
	集 積 回 路 工 学	講義	2	2		*	*	E
	デ ジ タ ル 信 号 処 理	講義	2	2		*	S	E
	プ ラ ズ マ 工 学	講義	2		2	*	*	E
	機 械 工 学 特 論	講義	2	2		集中講義		
	電 気 電 子 工 学 特 論	講義	2	2		集中講義		
	制 御 情 報 工 学 特 論	講義	2	2		集中講義		
	専 攻 科 インターシップ	実習	2	2		A	S	E
専門科目選択開設単位小計			48	32	16	Aの区分30単位及びSとE各区分28単位から14単位以上修得のこと。		
専門基礎科目開設単位計			67	40	27			
全開設単位合計(一般科目、専門基礎科目を含む。)			109	62	45			
全科目修得単位合計(一般科目、専門基礎科目を含む。)			62単位以上					
全開設単位合計(機械工学系)			89	54	35	備考欄の*は、他コース 扱いの科目(4単位以 内)		
全開設単位合計(制御情報系)			87	52	35			
全開設単位合計(電気電子系)			87	54	33			

※Aは機械工学系、Sは制御情報系、Eは電気電子系の履修科目を示す。

制御情報工学コース

機械・電気システム工学専攻

令和7年度入学生

授 業 科 目		授業形態	単位数	学年別配当		備 考		
				1 年次	2 年次			
必修	創 造 工 学 実 験	実験	2	2				
	技 術 英 語	演習	1		1			
	先 端 工 学 特 論	講義	2	2				
	専 攻 科 研 究 基 礎	実験	4	4				
	専 攻 科 研 究 論 文	実験	10		10	学位申請等論文		
専 門 科 目 必 修 単 位 小 計			19	8	11			
専門科目選択	弾 塑 性 力 学	講義	2	2		A	*	*
	破 壊 力 学	講義	2	2		A	*	*
	応 用 流 動 工 学	講義	2	2		A	*	*
	生 産 加 工 学	講義	2		2	A	*	*
	移 動 現 象 論	講義	2	2		A	*	*
	計 算 力 学	講義	2		2	A	S	*
	設 計 シ ス テ ム 工 学	講義	2	2		A	*	E
	メカトロクス工学	講義	2		2	A	S	E
	シ ス テ ム 制 御 工 学	講義	2	2		A	S	E
	デ ジ タ ル 制 御	講義	2	2		A	S	E
	労 働 安 全 衛 生 論	講義	2		2	A	*	*
	コ ン ピ ュ ー タ グ ラ フ ィ ッ ク ス	講義	2		2	*	S	*
	パ タ ー ン 認 識	講義	2		2	*	S	*
	形 式 言 語 と オ ー ト マ ト ン	講義	2	2		*	S	E
	デ ー タ ベ ー ス	講義	2	2		*	S	*
	応 用 電 磁 気 学	講義	2	2		*	S	E
	光 エ レ ク ト ロ ニ ッ ク ス	講義	2		2	*	*	E
	集 積 回 路 工 学	講義	2	2		*	*	E
	デ ジ タ ル 信 号 処 理	講義	2	2		*	S	E
	プ ラ ズ マ 工 学	講義	2		2	*	*	E
	機 械 工 学 特 論	講義	2	2			集中講義	
	電 気 電 子 工 学 特 論	講義	2	2			集中講義	
	制 御 情 報 工 学 特 論	講義	2	2			集中講義	
	専 攻 科 イン タ ー シ ッ プ	実習	2	2		A	S	E
専門科目選択開設単位小計			48	32	16	Aの区分30単位及びSとE各区分28単位から14単位以上修得のこと。		
専門基礎科目開設単位計			67	40	27			
全開設単位合計(一般科目、専門基礎科目を含む。)			109	62	45			
全科目修得単位合計(一般科目、専門基礎科目を含む。)			62単位以上					
全開設単位合計(機械工学系)			89	54	35	備考欄の*は、他コース扱いの科目(4単位以内)		
全開設単位合計(制御情報系)			87	52	35			
全開設単位合計(電気電子系)			87	54	33			

※Aは機械工学系、Sは制御情報系、Eは電気電子系の履修科目を示す。

(3) 物質工学専攻

物質工学専攻

令和7年度入学生

授 業 科 目			授業 形態	単 位 数	学年別配当		備 考	
					1年次	2年次		
必修	創造工学実験	実験	2	2				
	技術英語	演習	1		1			
	先端工学特論	講義	2	2				
	専攻科学研究基礎	実験	4	4				
	専攻科学研究論文	実験	10		10		学位申請等論文	
	専門科目必修単位小計		19	8	11			
専門科目選択	有機反応化学	講義	2	2		C	*	
	有機構造化学	講義	2		2	C	*	
	生体機能分子学	講義	2	2		C	*	
	生体物質化学	講義	2	2		C	*	
	化学工学特論	講義	2		2	C	*	
	機能有機材料特論	講義	2	2		C	*	
	分子生物学	講義	2		2	C	*	
	分子機能化学	講義	2		2	C	M	
	高分子材料特論	講義	2	2		C	M	
	応用物理化学	講義	2		2	C	M	
	機能性無機材料学	講義	2	2		C	M	
	半導体材料	講義	2	2		C	M	
	材料組織制御	講義	2		2	*	M	
	構造材料学	講義	2	2		*	M	
	触媒材料化学	講義	2	2		*	M	
	表面処理工学	講義	2	2		*	M	
	高温強度学	講義	2		2	*	M	
	輸送現象論	講義	2	2		*	M	
	結晶構造解析学	講義	2	2		*	M	
	生物応用化学特論	講義	2	2			集中講義	
	材料工学特論	講義	2	2			集中講義	
	専攻科インターンシップ	実習	2	2		C	M	
	専門科目選択開設単位小計		44	30	14	C及びMともそれぞれ30単位中14単位以上修得のこと。		
専門科目開設単位計		63	38	25				
全開設単位合計(一般科目、専門基礎科目を含む。)			103	62	41			
全科目修得単位合計(一般科目、専門基礎科目を含む。)			62単位以上					
全開設単位合計(生物応用化学系)			89	52	37	備考欄の*は他専攻扱いの科目(4単位以内)		
全開設単位合計(材料工学系)			89	54	35			

※ Cは生物応用化学系、Mは材料工学系の履修科目を示す。

生物応用化学コース

物質工学専攻

令和7年度入学生

授 業 科 目			授業形態	単位数	学年別配当		備 考	
					1年次	2年次		
必修	創造工学実験	実験	2	2				
	技術英語	演習	1		1			
	先端工学特論	講義	2	2				
	専攻科学研究基礎	実験	4	4				
	専攻科学研究論文	実験	10		10		学位申請等論文	
	専門科目必修単位小計			19	8	11		
専門科目選択	有機反応化学	講義	2	2		C	*	
	有機構造化学	講義	2		2	C	*	
	生体機能分子学	講義	2	2		C	*	
	生体物質化学	講義	2	2		C	*	
	化学工学特論	講義	2		2	C	*	
	機能有機材料特論	講義	2	2		C	*	
	分子生物学	講義	2		2	C	*	
	分子機能化学	講義	2		2	C	M	
	高分子材料特論	講義	2	2		C	M	
	応用物理化学	講義	2		2	C	M	
	機能性無機材料学	講義	2	2		C	M	
	半導体材料	講義	2	2		C	M	
	材料組織制御	講義	2		2	*	M	
	構造材料学	講義	2	2		*	M	
	触媒材料化学	講義	2	2		*	M	
	表面処理工学	講義	2	2		*	M	
	高温強度学	講義	2		2	*	M	
	輸送現象論	講義	2	2		*	M	
	結晶構造解析学	講義	2	2		*	M	
	生物応用化学特論	講義	2	2			集中講義	
材料工学特論	講義	2	2			集中講義		
専攻科インターンシップ	実習	2	2		C	M		
専門科目選択開設単位小計			44	30	14	C及びMともそれぞれ30単位中14単位以上修得のこと。		
専門科目開設単位計			63	38	25			
全開設単位合計(一般科目、専門基礎科目を含む。)			103	62	41			
全科目修得単位合計(一般科目、専門基礎科目を含む。)			62単位以上					
全開設単位合計(生物応用化学系)			89	52	37	備考欄の*は他専攻扱いの科目(4単位以内)		
全開設単位合計(材料工学系)			89	54	35			

※ Cは生物応用化学系、Mは材料工学系の履修科目を示す。

材料工学コース

物質工学専攻

令和7年度入学生

授 業 科 目			授業形態	単位数	学年別配当		備 考	
					1年次	2年次		
必修	創造工学実験	実験	2	2				
	技術英語	演習	1		1			
	先端工学特論	講義	2	2				
	専攻科学研究基礎	実験	4	4				
	専攻科学研究論文	実験	10		10		学位申請等論文	
	専門科目必修単位小計		19	8	11			
専門科目選択	有機反応化学	講義	2	2		C	*	
	有機構造化学	講義	2		2	C	*	
	生体機能分子学	講義	2	2		C	*	
	生体物質化学	講義	2	2		C	*	
	化学工学特論	講義	2		2	C	*	
	機能有機材料特論	講義	2	2		C	*	
	分子生物学	講義	2		2	C	*	
	分子機能化学	講義	2		2	C	M	
	高分子材料特論	講義	2	2		C	M	
	応用物理化学	講義	2		2	C	M	
	機能性無機材料学	講義	2	2		C	M	
	半導体材料	講義	2	2		C	M	
	材料組織制御	講義	2		2	*	M	
	構造材料学	講義	2	2		*	M	
	触媒材料化学	講義	2	2		*	M	
	表面処理工学	講義	2	2		*	M	
	高温強度学	講義	2		2	*	M	
	輸送現象論	講義	2	2		*	M	
	結晶構造解析学	講義	2	2		*	M	
	生物応用化学特論	講義	2	2			集中講義	
材料工学特論	講義	2	2			集中講義		
専攻科インターンシップ	実習	2	2			C	M	
専門科目選択開設単位小計			44	30	14	C及びMともそれぞれ30単位中14単位以上修得のこと。		
専門科目開設単位計			63	38	25			
全開設単位合計(一般科目、専門基礎科目を含む。)			103	62	41			
全科目修得単位合計(一般科目、専門基礎科目を含む。)			62単位以上					
全開設単位合計(生物応用化学系)			89	52	37	備考欄の*は他専攻扱いの科目(4単位以内)		
全開設単位合計(材料工学系)			89	54	35			

※ Cは生物応用化学系、Mは材料工学系の履修科目を示す。

2-3 単位の修得及び成績評価に関する規程

(1) 久留米工業高等専門学校専攻科における単位の修得に関する規程

(平成 18 年 4 月 1 日制定)

(目的)

第 1 条 この規程は、久留米工業高等専門学校学則第 5 3 条第 3 項の規定に基づき、専攻科の修了に必要な単位の修得について定めることを目的とする。

(修了に要する単位数)

第 2 条 専攻科の修了に要する単位数は、**6 2 単位以上**とする。ただし、専攻科の単位を修得し修了するには学則第 4 9 条別表第 3 に示す機械・電気システム工学専攻と物質工学専攻の各系（以下「コース」という。）のいずれかを履修しなければならない。

第 3 条 機械・電気システム工学専攻及び物質工学専攻のコースは、以下のとおりとする。

機械・電気システム工学専攻： 機械工学コース、電気電子工学コース、制御情報工学コース

物質工学専攻： 生物応用化学コース、材料工学コース

(他大学等での単位の修得)

第 4 条 第 2 条の規定にかかわらず、他の大学等において修得した単位は、6 単位を限度に一般科目選択の専攻科特論一般Ⅰ、Ⅱ又は専門基礎科目選択の専攻科特論専門Ⅰ、Ⅱの修得単位として置換えることができる。ただし、この場合も専門基礎選択科目 1 0 単位以上、専門選択科目 1 4 単位以上修得しなければならない。

(他コースの修得)

第 5 条 単位の修得にあたっては、他コースの選択科目を、4 単位を限度として修得することができ、修了に要する単位として認めることができる。

附 則

- 1 この規程は、平成 1 8 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 久留米工業高等専門学校専攻科の単位の修得に関する規程（平成 1 5 年 4 月 1 日制定）は、この規程制定の日から廃止する。
- 3 この規則は平成 1 8 年度入学者から適用し、平成 1 7 年度以前入学者の単位の修得に関しては、なお従前の例による。

附 則

この規程は、平成 2 7 年 6 月 2 5 日から施行し、平成 2 7 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

- 1 この規程は、平成 2 9 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

- 1 この規程は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

(2) 久留米工業高等専門学校専攻科における学業成績の評価並びに単位の認定及び修了に関する規程

(平成 18 年 4 月 1 日制定)

第 1 章 総 論

第 1 条 この規定は、久留米工業高等専門学校学則第 5 3 条第 3 項の規定に基づき専攻科における学業成績の評価及び修了に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

第 2 章 受講及び履修

第 2 条 当該学年の受講及び履修は、学則第 4 9 条に定める教育課程表に基づき必修科目及び選択科目を受講履修する。

2 選択科目の受講については、予め、校長に選択科目履修届を提出し受講するものとする。

3 各科目とも開講時数の **5 分の 4 以上出席**した者は、履修と認める。ただし、授業担当教員が履修上、特別の事情があると判断した場合は履修を認めないことができる。

4 遅刻及び早退は 3 回をもって、欠課 1 回とする。

第 3 条 授業に遅刻、早退又は欠席した者で、その理由が次の各号の一に該当すると校長が認めた者については、受講と認める。

(1) 忌引きの場合

(2) 出席停止（懲戒を除く）の場合

(3) 公共交通機関障害による場合

(4) 学校行事へ参加した場合

(5) 校長が認めた行事へ学校代表として参加した場合

(6) その他やむを得ない事情と校長が認めた場合

第 4 条 前条の規定により授業に遅刻、早退又は欠席した場合は、補講を受けることができる。

第 3 章 試 験

第 5 条 試験は、定期試験によるものの他適宜行うことができる。

第 6 条 定期試験は、該当科目の授業計画書（以下「シラバス」という。）に従って実施するものとする。

第 7 条 試験中不正行為を行った者の当該試験期間中の試験成績は 0 点とし、不正行為後の当該試験期間中の受験は認めないものとする。なお、第 8 条の適用は認めない。

2 前項以外の理由で停学を受け、試験を受けられなかった者の停学期間中の試験成績は 0 点とする。

第 8 条 第 3 条に規定する事由により定期試験を受験することができなかった者は、本人の願い出により校長が認めた場合は追試験を受けることができる。

第 9 条 追試験の願い出は、別に定める様式とする。

第4章 成績の評価

第10条 第2条の規定により履修と認められた者の成績の評価は、該当科目のシラバスに従って実施し、100点法で行うものとする。

第11条 学業成績の評価は、学年末成績の評価を基に次の5段階（S, A, B, C, D）で評価する。

- S 90点以上
- A 89点以下80点以上
- B 79点以下70点以上
- C 69点以下60点以上
- D 59点以下

第5章 単位の修得

第12条 単位の修得は、成績の評価が60点以上で当該科目担当教員が単位を認定した科目について、単位の修得を認める。

第6章 専攻科課程の修了

第13条 専攻科課程の修了は、久留米工業高等専門学校学則及び久留米工業高等専門学校専攻科の単位の修得に関する規程に基づき、専攻科修了認定に関する査定会議の議を経て校長が行なう。

附 則

1. この規程は、平成18年4月1日から施行する。
2. 久留米工業高等専門学校専攻科における学業成績の評価並びに単位の認定及び修了に関する規程（平成15年4月1日制定）は、この規則制定の日から廃止する。

附 則

この規則は、令和2年4月1日から施行し、平成31年4月1日より適用する。

附 則

1. この規程は、令和6年4月1日から施行する。
2. この規程は、令和6年度入学者から適用し、令和5年度以前入学者の学業成績の評価に関しては、なお従前の例による。

(3) 専攻科生の席次について

	〔平成 13 年 4 月 9 日	専攻科委員会決定〕
一部改正	〔平成 22 年 2 月 18 日	学科長委員会承認〕
一部改正	〔平成 24 年 4 月 26 日	学科長委員会承認〕
一部改正	〔平成 26 年 4 月 24 日	学科長委員会承認〕
一部改正	〔平成 29 年 5 月 10 日	専攻科委員会承認〕
一部改正	〔令和 2 年 12 月 9 日	専攻科委員会承認〕
一部改正	〔令和 6 年 3 月 7 日	専攻科委員会承認〕

専攻科生の席次は下記の G P A の数値によって決める。

$GPA = (S \text{ の単位数} \times 4 + A \text{ の単位数} \times 3 + B \text{ の単位数} \times 2 + C \text{ の単位数} \times 1) \div \text{規定単位数}$

90 点以上 : S, 80-89 : A, 70-79 : B, 60-69 : C

1. 規定単位数は、1 年前期終了時は 16 単位、1 年終了時は 34 単位、
2 年前期終了時は 51 単位、2 年終了時は 63 単位 とする。
2. 規定単位数を超えて修得した単位は、評価の低いものから削除し GPA に
加えない。ただし、必修科目については削除を認めない。
3. 不可及び未履修で規定単位に満たない者の不足単位数は 0 ポイントとして
算出する。
4. GPA は小数点 2 桁までを表示する(第 3 桁は四捨五入)。
5. 1 年生の各自の GPA を 2 年授業開始時まで明示する。
6. この席次は、授業料免除制度、各種奨学金制度、大学院推薦、成績優秀者
推薦等に使用する

附 則

この基準は、平成 26 年度から適用する。

附 則

この基準は、平成 29 年度から適用する。

附 則

この基準は、令和 2 年度から適用する。

附 則

令和 6 年度入学者から適用し、令和 5 年度以前入学者の学業成績の
評価に関しては、なお従前の例による。

2-4 公欠届と追試験届について

「久留米工業高等専門学校専攻科における学業成績の評価並びに単位の認定及び修了に関する規程」第3条（追試験）、第-8条（公欠）について、次のとおり定める。

(1) 公欠届及び追試験届

1. 公欠届は、所定の用紙に記入し、教務係へできるだけ事前に提出する。
2. 追試験を受ける者は、追試験願に追試験を受ける理由（必要に応じて医師の診断書等を添えること）を書き、担任の承認を得て科目担当教員へ提出する。
3. 科目担当教員は、前後期ともに成績締切日までに成績報告できるよう追試験を実施する。
4. 特別な事情で成績締切日までに追試験を受けられなかった者は、前期科目は後期内、後期科目は翌年度前期内に追試験を受けることができる。
5. 上記の理由で試験を受けられなかった者の当該学期の成績評価は#(不可)と記す。
6. その他、追試験に関する事項で問題が生じた場合は、専攻科委員会で審議する。

(2) 公欠届及び追試験願の書式

最終ページにそれぞれの書式を示している。

第Ⅲ章 学生生活と進路状況

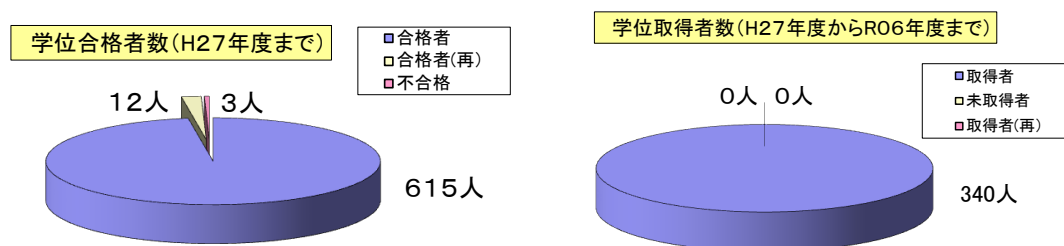
3-1 大学改革支援・学位授与機構へ「学士」の学位申請

専攻科に2年以上在学し63単位以上修得で修了見込みの学生は、大学 評価・学位授与機構（旧，学位授与機構）へ学位申請します。時期は2年後期の10月上旬です。書類の提出にあたっては、平成26年度までは例年6月末に機構の発行する「学士への途」、「申請書類」をもとに学生説明会を開き、詳しく説明していました。旧来の学位申請・審査では修得単位と学修成果の提出が10月にあり、学修成果内容について12月に小論文試験を受験していました。

平成27年4月1日より本専攻科は「学位の授与に係る特例適用」の認定を受け、学位申請方式が変更となりました。これにより平成26年度専攻科入学生より「新方式に沿った学位授与申請」を行っています。

申請にあたっては学位授与機構が指定する「学修総まとめ科目」に関する計画書ならびに成果報告書の提出が求められます。本専攻科では2年生で修得する「専攻科研究論文」をこれに充てています。

詳細な申請手続き方法の案内は当該年度での説明会にて行いますが、申請の流れとしては、まず申請者は2年次の10月に「学修総まとめ科目」の履修計画書の提出を行うことになります。その後、専攻科修了が確定した後の翌年2月になりましたら、その成果の要旨等を学位授与機構へ提出します。この計画書ならびに成果の要旨等をもって学位審査がなされ、3月に学位授与が認められることとなっています。この方式に沿って学位授与が認められる専攻科は“認定専攻科の特例適用専攻科”と呼ばれています。ちなみに平成27年度までにおいて旧来方式で学位を取得した修了生の人数は以下の左図に示す通りで、これまで99%の学生が学位を取得しています。また新方式にて学位授与が認められた修了生の人数は下図の右側に示しており、100%の学生が学位を取得しています。



学位授与申請は2年次の後期となりますが、単位の修得ならびに「学修総まとめ科目」について主な注意事項を以下に記述しておきます。

単位の修得：

学位授与機構へ申請する際に修得単位で注意しなければならないのは、各専門科目群の修得単位数です。ほとんどの学生は、高専5年間で修得した専門科目が多く問題ありませんが、高校から高専へ編入した学生は1年生のときに確認しておく方が安全です。放送大学の単位は専攻科内の規定に係わらず、学位授与機構では科目振替単位として認められます。

学修総まとめ科目の成果：

平成26年度入学生より旧来の学修成果報告に代わり「学修総まとめ科目」の「履修計画書と成果の要旨等」提出へと学位申請方式が変更となりました

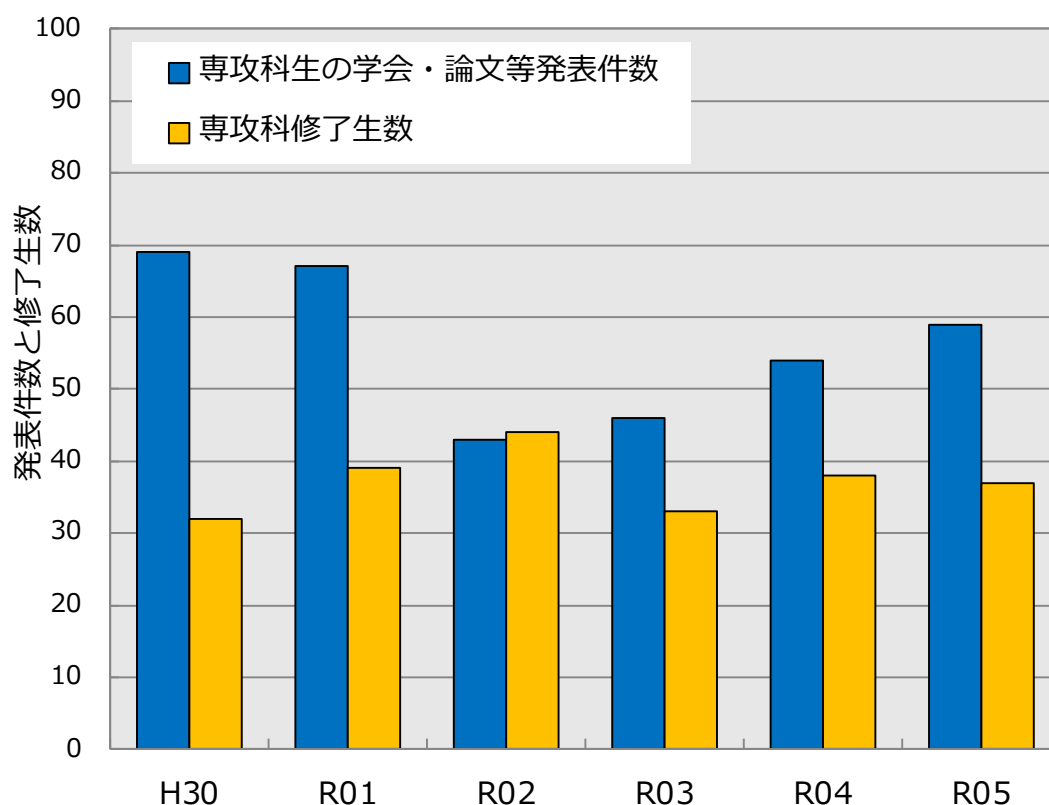
本校では「専攻科学研究論文」（2年次開講，通年10単位）を「学修総まとめ科目」と位置付けていますので，学位申請にはこの科目の履修が必要です。学位申請にはまず10月に「履修計画書」（A4用紙×2枚）を学位授与機構へ提出し，その成果について2月に「成果の要旨等」（A4用紙×2枚）として再度学位授与機構へ提出します。これらの提出された書類について審査され，3月に学位授与がなされます。但し，学位授与機構への要旨等提出はあくまでも学生の学修成果ですので，自分自身の考えと言葉で書き，それに関連する基礎知識を十分備え，内容に関して理解しておく必要があります。どのような観点でまとめるかについては当該年度の学位申請前に説明会を開催する予定です。

3-2 学会等における発表実績

◆実践的開発技術者の育成

◆学会加入と一人一回の発表実績

◆研究成果の公表と地域への貢献

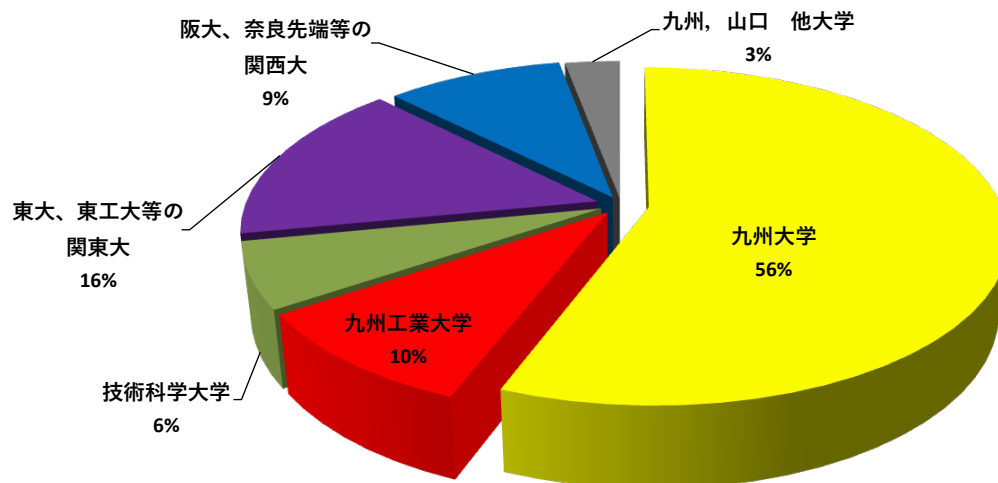


学会等で発表する場合，後援会から学会活動補助費の支援があります。指導教員の先生から，申請書を提出して頂くようにして下さい。専攻科を修了するまでの間に少なくとも一度は学協会で発表できるように頑張ってください。

3-3 専攻科生の進路状況について

進 学

学生（本学科生と専攻科生）の就職に関しては、キャリア支援室長のもとキャリア支援室と事務部（学生生活支援係）で連絡会議を行っています。企業の受付状況や企業訪問など就職に関する業務を組織的に遂行しています。



平成06～令和06年度の累計

表 進学した大学院 (H28-R4), 人数

	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	合 計	割合
九州大学	12	11	11	14	13	2	15	10	14	102	56%
大阪大学	2	1	4	5	2	1	1	2		18	10%
東京工業大学(東京科学大学)		5	1	1	1	4	1		1	14	8%
早稲田大学	2	1	2	2						7	4%
奈良先端	1				3	2				6	3%
北陸先端	2			3	1			1		7	4%
東京大学	1	2		2		1				6	3%
九州工業大学					2			4	3	9	5%
東北大学			1	1			1		1	4	2%
名古屋大				1	1					2	1%
熊本大学									1	1	1%
その他				1			3		1	5	3%
合 計	20	20	19	30	23	10	21	17	21	181	100%

大学院卒業後の進路状況は追跡調査から、企業は東芝、ソニー、本田技研工業、パナソニック、リコー、味の素、三井化学、東レ、P & G、SUBARU、日本製鉄、神戸製鋼所、NOKなどで、地元企業では、安川電機、昭栄化学工業、トヨタ自動車九州、ヤンマー建機、東京エレクトロン九州など、その他博士課程進学、県庁などとなっています。

就 職

令和6年度の主な就職先

九州圏内： TOTO、福岡銀行、昭栄化学工業、JSME

九州圏外： AGC、旭化成、キオクシアシステムズ、関電工、西日本電信電話、パナソニックコネクト、グンゼ、デンソーテクノ、インフォコム西日本、ソリトンシステムズ、ヒップ、FancyWebmate、DMG 森精機

令和5年度の主な就職先

九州圏内： 安川電機、日清紡マイクロデバイス AT、大分キャノン、東洋新薬、資生堂、Fusic

九州圏外： 富士フイルム、テルモ、シスメックス、Fixer、AMEC コンサルタantz、旭化成、ソフトバンク、中山製鋼所、カネカ、沢井製薬、大日精化工業

令和4年度の主な就職先

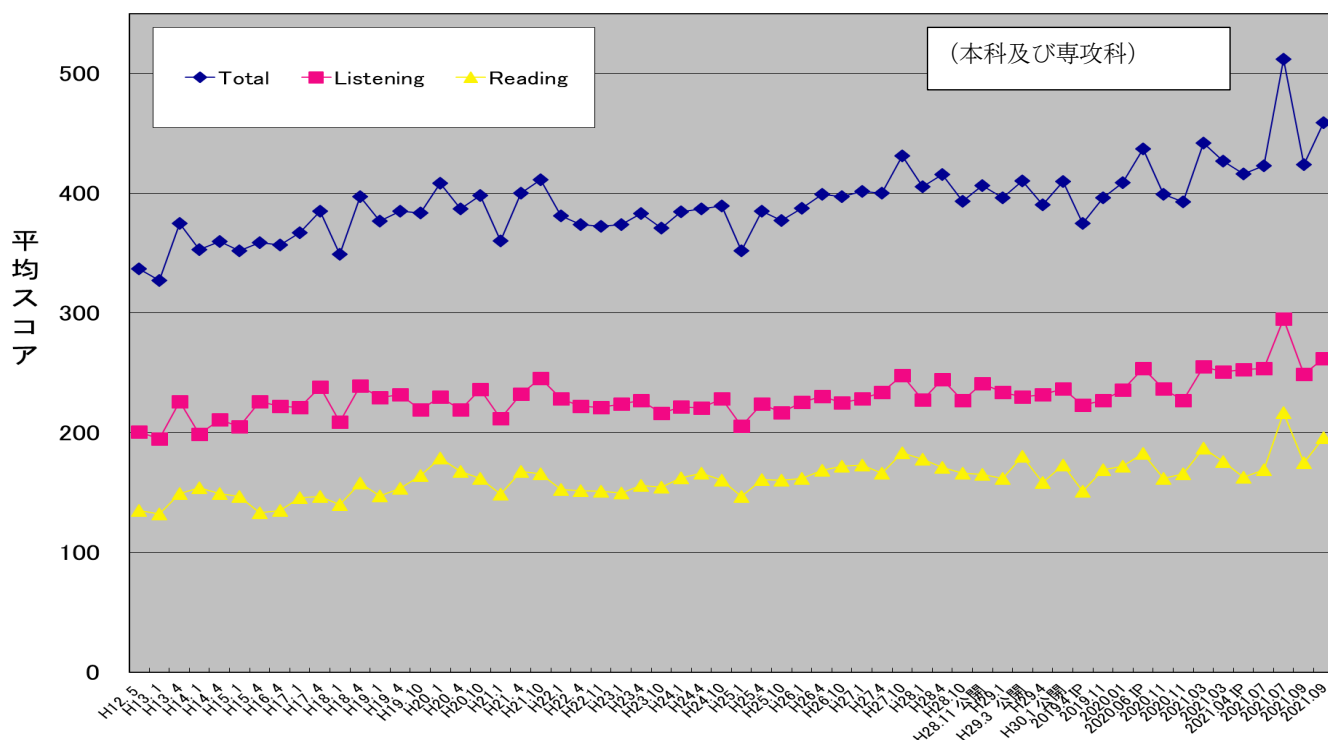
九州圏内： TOTO、JASM、平田機工、トヨタ自動車九州、タカギ、ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング、東洋新薬

九州圏外： トヨタ自動車、ソフトバンク、日産オートモーティブテクノロジー、ディスコ、富士通クラウドテクノロジーズ、沢井製薬、中央エンジニアリング

3-4 本科・専攻科TOEICテスト受験者の平均点の推移

下図は、平成12年度から令和3年度の本校TOEIC全受験生（本科・専攻科）の平均点の推移を表しています。近年益々、企業への就職や大学院の入試でTOEICの点数を重視するところが増加しており、ほとんどの大学院では、入試科目から英語をはずし、TOEIC公開テスト等の外部評価試験のスコアで評価するようになってきています。そのため、専攻科でも本科同様TOEIC受験を奨励しており、毎年4月のIPテスト、公開テストを学内で実施しています。大学院の入試ではIPテストのスコアを認めていない大学が多数となってきました。公開テストで目標点に到達できるようIPテスト及び公開テストを複数回受験し勉強に役立てることを推奨します。

なお、本校専攻科修了生へのアンケートでは、専攻科在籍中に2～5回受験しており、平均点は約570点でした。大学工学部学生の全国平均は550点程度と言われているので、新入生の皆さんも卒業までに600点以上のスコアが取れるよう頑張ってください。



3-5 各コースの学習・教育到達目標

本校の教育理念

「自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を
兼ね備えた、社会に貢献できる技術者の育成」

本科，専攻科ともこの教育理念のもとに教育を行っています。専攻科学生のみならずもこの教育理念を改めて自覚し学業に励んでください。

専攻科での授業は自己学習と授業の両輪でなされます。シラバスには各科目の授業時数と単位数を記載していますが、これらを支える自己学習時間との間には次のような関係があります。

授業時間＋自己学習時間＝45 時間／1 単位

例えば，授業時数 30 時間の講義で 2 単位の場合，授業時間と自己学習時間の和として 90 時間を要しますので，60 時間の自己学習時間が必要です。本科での学習と異なるという自覚を持って授業に臨んでください。シラバスには，授業時数のほかに，授業の目的，到達目標，学習内容，評価方法など，授業ごとに細かく記載していますので，日々の学習にこれを活用してください。

学生の成績評価

成績評価は，主に定期試験で評価します。出席点という概念（項目）はなく，主に定期試験の学生答案を審査します。規定の出席を満たすということは科目履修に相当し，成績ではありません。

機械工学 コース

- 1 技術者倫理
 - 1-1 技術者倫理を広い視野から多面的に考えることができる。
 - 1-2 技術者倫理に対しその責任を理解できる。
 - 1-3 技術者倫理に対しその責任を自覚できる。
- 2 数学、物理、情報技術に関する知識と応用力
 - 2-1 数学に関する知識を専門分野に応用できる。
 - 2-2 物理に関する知識を専門分野に応用できる。
 - 2-3 情報処理に関する知識を専門分野に応用できる。
- 3 機械工学に関する専門知識の習得と職業上応用できる基礎能力の育成
 - 3-1 材料と強度に関する専門知識を習得し、職業上応用できる基礎能力を身に付ける。
 - 3-2 機械設計に関する専門知識を習得し、職業上応用できる基礎能力を身に付ける。
 - 3-3 生産工学に関する専門知識を習得し、職業上応用できる基礎能力を身に付ける。
 - 3-4 熱・流体工学に関する専門知識を習得し、職業上応用できる基礎能力を身に付ける。
 - 3-5 制御・情報技術に関する専門知識を習得し、職業上応用できる基礎能力を身に付ける。
- 4 工学的な解析能力・考察力の育成及び機器操作の習得
 - 4-1 機械工学を学ぶ上で必要な各種の機械や機器の操作ができる。
 - 4-2 実験・演習の結果を工学的に解析し考察できる。
- 5 自主的にテーマを企画立案し、創造的かつ継続的に実施できる。
- 6 種々の工学的知識や技術を利用し、自己学習やグループ学習により社会の要求を解決できる。
- 7 専門技術に関するプレゼンテーションと国際化に対応できる基礎的なコミュニケーション
 - 7-1 専門技術に関するプレゼンテーションができる。
 - 7-2 国際化に対応できる基礎的なコミュニケーションができる。
- 8 与えられた条件のもとで技術者として地域社会に貢献できる。

電気電子工学 コース

- 1 先端の電気エネルギーをマネジメントできる電気電子技術の習得
 - 1-1 電気エネルギーの発生やその制御のしくみを理解し説明できる。
 - 1-2 電気エネルギーに関する専門的知識、技術を設計に応用できる。
- 2 先端の情報通信・電子機器を活用できる電気電子技術の習得
 - 2-1 ICT 電子機器のしくみを理解し説明できる。
 - 2-2 ICT 電子機器に関する知識、技術を設計に応用できる。
- 3 もの、製品をベースにした技術実務能力の習得
 - 3-1 電力、電気、電子機器に関する実験を計画、遂行できる。
 - 3-2 実験データを解析、考察し説明できる。
 - 3-3 共同で実験・演習を遂行できる。
- 4 電気電子技術の基礎となる学力の修得
 - 4-1 数学、物理などの自然科学や情報技術に関する基礎事項を説明できる。
 - 4-2 自然科学や情報技術に関する基礎事項を電気電子技術の専門領域で適用できる。
- 5 技術に関するコミュニケーション能力の育成
 - 5-1 わかりやすく論理的に情報や意見を文書や口頭で伝達できる。
 - 5-2 英語により電気電子技術に関する基本的なコミュニケーションができる。
- 6 技術者倫理感覚の育成
 - 6-1 技術が地域社会や国際社会あるいは自然環境に及ぼす影響、効果を理解できる。
 - 6-2 規格、品質、安全性等に関する技術者の責任を説明できる。
- 7 企画・管理能力の育成
 - 7-1 実験・実習や社会との連携活動の中から技術的な課題を見出すことができる。
 - 7-2 技術的な課題を解決するための計画を立案し遂行できる。

制御情報工学 コース

- 1 技術者としての広い視野と倫理観
 - 1-1 豊かな心を持ち，広い視野で物事を捉えることができる。
 - 1-2 技術者としての倫理観を持ち，技術が社会，自然環境に及ぼす効果や影響を理解できる。
- 2 基礎工学の知識と応用力
 - 2-1 数学，自然科学，情報に関する知識を持ち，基礎的な工学問題の解決に応用できる。
 - 2-2 制御，情報工学専門周辺の基礎工学に関する知識を持ち，基礎的な工学問題の解決に活用できる。
- 3 専門工学の知識と応用力
 - 3-1 制御，情報およびこれらに関連した機械，電気電子分野の専門知識を持ち，工学問題の解決に応用できる。
 - 3-2 各専門分野の知識，技術を複合的に関連づけることができる。
 - 3-3 上記の分野の基礎的な知識・技術をもとに実験し，分析，考察することができる。
- 4 デザイン力

学んだ知識や技術をベースにして社会の要求に対する解決法を立案し，実現までの手順を計画することができる。
- 5 コミュニケーション力
 - 5-1 日本語で自己の考えや知識を的確に表現し，議論することができる。
 - 5-2 英語による基礎的なコミュニケーションができる。
- 6 実践力
 - 6-1 他者と協力して課題に取り組むことができる。
 - 6-2 自ら学んで，必要な知識や情報を獲得し，継続的に学習できる。
 - 6-3 与えられた課題に対して，計画的に作業を進め，期限内にまとめることができる。

生物応用化学 コース

- 1 技術者倫理と多面的視野
 - 1-1 技術者として必要な倫理観を身に付け, 管理能力, 社会に対する説明責任能力を習得する。
 - 1-2 地球的規模で環境を考え技術をデザインする能力を習得する。
- 2 生物応用化学基礎と工学基礎
 - 2-1 生物および化学に関する基礎知識を習得する。
 - 2-2 物理, 数学および情報技術を工学に応用できる。
- 3 生物応用化学の専門知識と応用力
 - 3-1 生物化学もしくは応用化学に必要な専門知識, および両分野に共通して必要な専門知識を習得しそれらを当該工業分野に応用することができる。
 - 3-2 生物化学もしくは応用化学に必要な実験技術, および両分野に共通して必要な実験技術を体得しそれらを種々の問題解決に応用することができる。
- 4 生物応用化学基礎, 工学基礎, 生物応用化学の専門知識を活用し社会の要求を解決するための企画力を持っている。
- 5 国際化に対応できるコミュニケーション基礎能力を習得する。
- 6 自主的にテーマを企画立案し, 創造的かつ継続的に実施することができる。
- 7 地域社会を中心とした産業界に技術者として広く貢献できる。

材料工学 コース

- 1 自然科学および情報処理技術に関する知識
 - 1-1 数学、物理、化学などの自然科学に関する基礎知識を持ちその応用ができる。
 - 1-2 情報処理に関する知識や技術を専門分野に適応できる。
- 2 材料に関する基本的知識と応用力
 - 2-1 材料、特に金属およびセラミックス材料の物性、構造、性質についての基礎知識を身に付けている。
 - 2-2 材料、特に金属およびセラミックス材料の製造プロセスについての基礎知識を身に付けている。
 - 2-3 これらの知識を工学問題の解決に活用できる。
- 3 工学的基礎原理・現象の理解能力
 - 3-1 工学的な基礎原理・現象を実験によって理解できる。
- 4 調査および実行能力
 - 4-1 課題に対して自主的に調査できる。
 - 4-2 計画性を持って物事に取り組み、実行できる。
 - 4-3 課題の結果を間違いの少ない文章および口頭で表現し、討論できる。
- 5 異文化理解とコミュニケーション能力
 - 5-1 英語により材料工学に関する基本的コミュニケーションができる。
- 6 多面的視野と技術者倫理
 - 6-1 技術の人間社会や自然環境への関わりを理解し、グローバルに物事を考えることができる。
 - 6-2 技術者の社会的責任を自覚することができる。
- 7 地域産業での実務経験
 - 7-1 インターンシップなどの実務経験を通して、多面的に物事を考えることができる。

3-6 専攻科の年間行事

月	入学予定者（5年生）	1 年 生	2 年 生
4		入学式 始業式，オリエンテーション 前期授業開始 研究論文配属 選択科目履修届 TOEIC IP テスト	始業式 オリエンテーション 前期授業開始 研究論文配属 選択科目履修届 TOEIC IP テスト 就職活動 大学院説明会（随時）
5	専攻科入学試験 （推薦・前期学力）	入学時アンケート調査 保護者懇談会	就職活動 大学院説明会（随時） 学位申請手続きの準備開始 大学評価・学位授与機構説明会
6			大学評価・学位授与機構申請 （学修総まとめ科目の計画書提出）
7		インターンシップ説明会	大学院入試
8		前期定期試験 インターンシップ	大学院入試 前期定期試験
9		インターンシップ 創造工学実験発表会 専攻科インターンシップ報告会*	
10	専攻科入学試験 （後期学力・社会人）	後期授業開始 選択科目履修届 大学院説明会（随時）	後期授業開始
11		進路面談（必要に応じ） 大学院説明会（随時）	
12		大学院説明会（随時）	
1		大学院説明会（随時）	研究論文発表会（1月末開催予定）
2		後期定期試験 大学院説明会（随時） 就職活動	後期定期試験 大学評価・学位授与機構申請 （学修総まとめ科目の成果の要旨等提出） 修了査定会議 学位申請書類送付
3	専攻科入学手続 入学者ガイダンス	専攻科研究基礎発表会 （3月初旬開催予定） 大学院説明会（随時） 就職活動	修了式 学位記授与

↑ 専攻科 先端工学特論 特別講義開催 ↓